

分類	小学校			中学校	引用
目的	各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと及び国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的とする義務教育のうち、基礎的なものを施すこと			各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎及び国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を卒業までに育むことができるよう、小学校教育の基礎の上に、中学校教育を通じて身に付けるべき資質・能力を明確化し、その育成を高等学校教育等のその後の学びに円滑に接続させていくこと	教師 向け 学習 指導 参考 資料 より
学年	低学年	中学年	高学年	青年前期	
教授組織	学級担任制			教科担任制	
発達の段階	小学校中学年以降の学習の素地の形成 ↓ ・基礎的な知識・技能の定着 ・感性を豊かに働かせ、身近な出来事から気づきを育て考えること	具体的な活動や体験を通じて低学年で身に付けたことを、より各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期	抽象的な思考力が高まる時期→指導の専門性の強化が課題	・小学校段階に比べ、心身の発達上の変化が著しい ・生徒の能力・適正、興味・関心等の多様化が一層進展 ・内面的な成熟が進み、性的にも成熟し、知的な面では抽象的、論理的思考が発達するとともに社会性も発達する。 ・自我意識が高まるとともに個性が多様化してくる時期	
指導の充実	安心して学べる居場所としての学級集団の中で基礎的・基本的な知識及び技能をを反復練習もしながら確実に定着させるとともに、知識及び技能の習得や活用の喜び、充実感を味わう活動を充実することが重要		専科指導の充実、子どもたちの個性に応じた得意分野を伸ばしていくためにも重要	子どもたちにどのような資質・能力を育むことを目指すのかを明確にし、すべての教職員や地域が課題・目標を共有して対応していくことが重要	
重視すべき課題	・「人として、行ってはならないこと」についての知識と感性の涵養や、集団や社会のルールを守る態度など、善悪の判断や規範意識の基礎の形成 ・自然や美しいものに感動する心などの育成（情操の涵養）	・抽象的な思考の次元への適応や他者の視点に対する理解 ・自己肯定感の育成 ・自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養 ・集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成 ・体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくり		・人間としての生き方を踏まえ、自らの個性や適性を探求する経験を通して、自己を見つめ、自らの課題と正面から向き合い、自己の在り方を思考 ・社会の一員として他者と協力し、自立した生活を営む力の育成 ・法やきまりの意義の理解や公德心の自覚	子どもの道徳に関する 審議の概要より
新時代の学びを支える環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ●新時代の学びを支える教室環境等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・「1人1台端末」や遠隔・オンライン教育に適合した教室環境や教師のICT環境の整備 ・学校図書館における図書の実用を含む環境整備など既存の学校資源の活用促進 ・「新しい生活様式」も踏まえ健やかに学習できる衛生環境の整備やバリアフリー化 ●新時代の学びを支える指導体制等の計画的な整備 <ul style="list-style-type: none"> ・「1人1台端末」の活用等による児童生徒の特性・学習定着度等に応じたきめ細かな指導の充実や、「新しい生活様式」を踏まえた身体的距離の確保に向け、少人数によるきめ細かな指導体制や小学校高学年からの教科担任制の在り方等の検討を進め、新時代の学びを支える指導体制や必要な施設・設備を計画的に整備 				令和の日本型学校教育 (答申)より